



『知床森林生態系保護地域』には、海岸植物から高山帯に至るまで様々な植物相が形成され、大型の猛禽類・哺乳類をはじめとして多くの生物種が自然本来の姿で生息しているといわれ、日本では数少ない森林生態系があります。

◆写真説明◆

上：知床五湖の二湖から望んだ生態系保護地域中心部の知床連山  
 右中：海浜植物を採食中のエゾヒグマ  
 知床の主ともオヤジとも言われる  
 左下：袋角のエゾシカ  
 秋には皮がむけ骨質の枯角になる



**編集後記**

事務室の中にも、ゴウゴウたるオホーツク海の家鳴りが聞こえだすと、冬將軍の到来です。

今月号の「知床の森から」は、試みに、パソコン（画像データベース）をフル活用して全ページカラー仕上げとしてみました。

今後とも体裁にふさわしい内容となるよう努力をしてみたいです。

**人の動き**（12月1日付）

転出 北見営林支局 田村昌浩（企画官）  
 転入 企画官 田畑英喜（清里署）

**知床の森から**

平成9年12月 第52号



オオワシ（ワシタカ科）  
 国の天然記念物指定で、オホーツク沿岸やサハリンで繁殖期を過ごしたオオワシは、当地域に10月末から11月初旬にかけて飛来する。

北見営林支局 〒099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
 知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

**好評だった木工体験と講演**

~~~~~ なごやかな雰囲気 ~~~~~

第17回「森とのふれあい」『木工体験・講演』を、11月9日に知床森林センターセミナー室で23名（小学生5名含む）が参加して実施しました。

今回の「森とのふれあい」は、斜里町民を対象とした木工体験と講演です。

木工体験は、あらかじめ用意した森の宝物（松ボックリ、年輪プレート、ブドウヅル等）と小石を利用した、リース造りです。

センター職員による材料の取り扱い方や造り方の説明のあと、さっそく材料を選びリース造りに入りました。参加者の



山岸教授による講演

中には馴れた手つきの人や、なかなか思い通りにいかなく苦戦している人など様々でしたが、楽しそうな話し声や笑顔で、セミナー室が終始なごやかな雰囲気に包まれました。短い時間の中でしたが、それぞれに思い思いのリースが出来上がり、帰りには用意した森の宝物？のお持帰りもあり好評でした。

講演は、昨年に引き続き北見工業大学工学部教授山岸喬氏による『役に立つ身近な植物』と題するものでした。スライドをまじえて世界各地の植物とその地の人々の営みや植物との係わり、特にネギの原種の紹介など興味深い話しが盛り沢山でした。



参加者によるリース造り

# 知床半島のドングリは凶作

## 野生動物には試練の冬

知床森林センターが毎年実施(知床半島)している「ミズナラ堅果結実調査」の、本年の調査結果がまとまった。

それによると昨年の豊作が一転して、凶作となった。

この調査は、知床半島の主要な樹種の一つであるミズナラについて、「堅果(ドングリ)の結実状況などの把握をおこない、その変動の様子を明らかにしミズナラ造成に資する」目的で、平成元年から行っている。

調査地は知床半島内に2箇所設置、太さの異なる25本のミズナラを調査木として選定した。

堅果の収集は、各調査木の枝の広がり(樹冠)の下に、落下する堅果を受け止める1メートル平方の寒冷紗で作ったシードトラップを3個設置し、落下する堅果を収集する。あわせて堅果の形状及び重量並びに健全

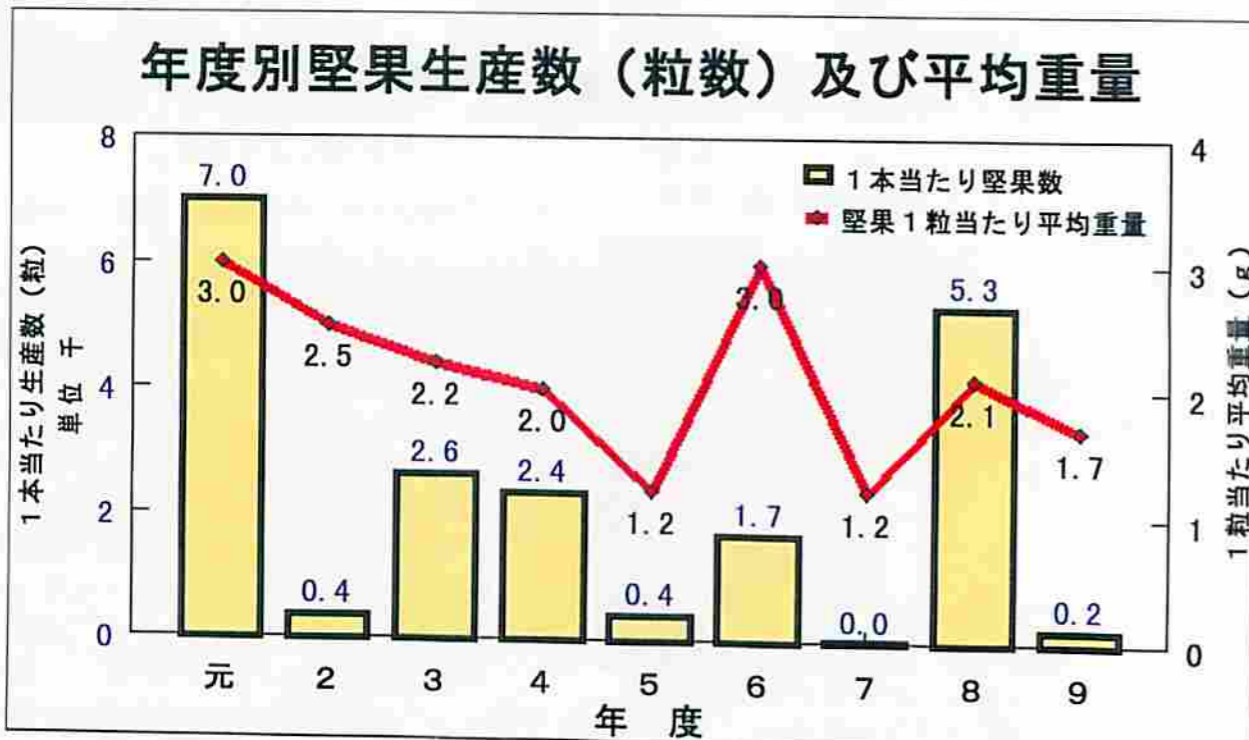


全度などもデータとして得ている。

堅果の収集期間は9月中下旬から10月下旬まで、週一回の固定曜日を収集日として5回収集している。

9年間の調査結果は下図のとおりとなっている。

本年の調査木1本あたりの堅果生産数はわ



ずかに200粒に過ぎなかった。

これは調査期間9年間の中で平成7年に次ぐ少ない生産数である。豊作の翌年は凶作と一般的にいわれるパターンを、本年もまた証明したことになる。

凶作という事実は堅果の質にも影響を及ぼし、堅果1粒あたりの平均重量は1.7グラムで、例年に比べ小さく成っている。

本年は生産数が少なく、あわせて堅果の平均重量も小さいという凶作の現象が



エゾシカ

現れている。

調査地以外の状況を見てみる。知床半島の天然林はミズナラが多いのが特徴であるが、今年はおしなべて堅果の実りは少ないようである。

凶作は野生動物に深刻な影響を与える。大型の動物で、集中的に採食傾向を示すといわれる大食のエゾヒグマや、冬眠せず雪を掻きながら採食するエゾシカにとっては、食べるべきドングリが無いに等しいことである。

知床半島の生態系をしっかり支えているミズナラ堅果の凶作は、今冬の野生動物たちになんらかの影響を与えるにちがいない。



エゾシマリス

## 発見の森 コース整備完了

夏は自然観察、冬は歩くスキーなど身近な森の散策路

斜里町運動公園に隣接する国有林、名付けて「発見の森」に遊歩道が整備されました。この森は、当センターと知床博物館がイベントなどに活用している場所ですが、町民にも広く活用してもらおうと歩道整備を行いました。コース内には先住民が残したチャシ(砦あなど)や堅穴住居跡、いろいろな樹木や動物などが観察出来る身近な森として今後益々の活用が期待されます。

